

高齢者歯科

大項目	中項目	小項目	学習目標
必修：2 社会と歯科医療	イ 保健・医療・福祉・介護の制度と医療経済	g 地域歯科保健活動での各職種の連携	1. 多職種連携に関わる職種を列挙する。 2. 関連職種の定義を説明する。 3. チーム医療を説明する。 4. 在宅医療に於ける歯科の役割を説明する。
必修：3 チーム医療	ア チーム医療の意義 イ チーム医療における歯科の役割	a 多職種連携 c 病診連携 d 医療チームの構成員と役割 a かかりつけ歯科医 b 在宅医療（訪問歯科診療を含む） c 情報提供 d セカンドオピニオン	
必修：4 予防と健康管理・増進	エ 口腔健康管理	a 口腔衛生管理のための口腔のケア ア b 口腔機能維持向上のための口腔のケア c 病期に応じた口腔ケア	1. 口腔衛生管理のアセスメントを説明する。 2. 口腔衛生管理の目的を説明する。 3. 口腔衛生管理の手法を説明する。 4. 口腔機能管理の目的を説明する。 5. 病期の概念を説明する。 6. 各病期における口腔のケアニーズを説明する。
必修：12 治療の基礎・基本手技	サ 栄養療法	a 経口栄養、経静脈栄養、経管栄養（経腸栄養、胃瘻（PEG））	1. 栄養療法の目的について説明する。 2. 経腸栄養方法について説明する。 3. 経管栄養方法について説明する。 4. 栄養方法の選択について説明する。 5. 人工的水分栄養補給法の導入方法について説明する（意思決定プロセス）。 6. PEGとはなにか説明する。
総論Ⅰ：1 健康の保持・増進と社会保障の仕組み	エ 地域保健、地域医療	j 在宅医療	1. 在宅医療の位置づけを説明する。 2. 在宅医療の役割を説明する。
必修：7 主要な疾患と障害の病因・病態	イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念	f 摂食嚥下障害	1. 摂食嚥下障害の定義を説明する。 2. 摂食嚥下障害の病態について説明する。
必修：8 主要な症候	ウ 全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候	j 脳血管・神経・筋疾患に伴う症候（摂食嚥下障害など） l 認知症患者、要介護高齢者にみられる症候）カンジダ症、口腔乾燥）	1. 摂食嚥下障害の原因となる疾病を列挙する。 2. 主要な全身的疾患の口腔症状を説明する。
必修：12 治療の基礎・基本手技	シ 口腔機能のリハビリテーション	a 機能の回復（咀嚼機能、摂食嚥下機能、構音機能） b 口腔機能管理 c コミュニケーションと社会参加	1. 口腔機能の回復手法について説明する。 2. 口腔機能管理とはなにか説明する。
総論Ⅴ：5 高齢者への対応	イ 機能評価 ウ 栄養評価	e 摂食嚥下障害 b 栄養支援チーム（NST）	1. 摂食嚥下機能のスクリーニング検査方法について説明する。 2. 摂食嚥下機能の精密検査について説明する。 1. NSTの定義を説明する。 2. NSTの構成職種を列挙する。 3. ミールラウンドについて説明する。
総論Ⅵ：1 口腔検査、顎口腔機能検査	イ 顎口腔機能検査	e 嚥下機能検査	1. 嚥下造影検査（VF）について説明する。 2. 嚥下内視鏡検査（VE）について説明する。 3. 検査画像から誤嚥を診断する。
総論Ⅶ：6 リハビリテーション	イ リハビリテーションの技術	a 摂食嚥下障害のリハビリテーション	1. 摂食嚥下リハビリテーションの目的について説明する。 2. 摂食嚥下リハビリテーションの流れについて説明する。
各論Ⅴ：1 高齢者等の歯科診療で注意すべき疾患・病態	ウ 摂食嚥下障害 エ 誤嚥性肺炎 オ フレイル	a 摂食行為・食物認知障害 b 咀嚼障害 c 嚥下障害 a 呼吸器疾患 b 胃食道逆流症 カ その他含む	1. 摂食嚥下障害の症状を列挙する。 2. 咀嚼障害の症状について説明する。 3. 嚥下障害の症状について説明する。 1. 誤嚥性肺炎の診断基準について説明する。 2. 誤嚥性肺炎の症状を説明する。 1. フレイルの定義を説明する。 2. フレイルへの対処法を列挙する。
各論Ⅴ：2 老化による口腔・顎顔面領域の症候	ア 機能的変化	b 摂食嚥下機能 c 発声・構音機能 d 感覚機能 e 反射機能	1. 加齢に伴う機能的変化を説明する。
各論Ⅴ：3 高齢者等に関連した臨床評価・診断・治療計画	イ 口腔機能の評価	a 摂食嚥下機能 b 発声・構音機能 c 唾液量 d 筋	1. 発声・構音機能の評価方法を列挙する。 2. 唾液量の測定方法について説明する。 3. 筋の評価方法について説明する。
必修：6 人体の発生・成長・発達・加齢	エ 加齢・老化	a 細胞・組織・臓器の加齢現象（歯および口腔を含む） c 高齢者の心理的特徴	1. 加齢に伴う歯と口腔の変化を説明する。 2. 高齢者の心理的特徴（特にうつ、認知症）について説明する。
総論Ⅱ：8 人体の成長・発達・加齢	エ 加齢・老化による口腔・顎顔面の変化	a 器質的変化 b 機能的変化	1. 加齢に伴う器質的変化を説明する。 2. 加齢に伴う機能的変化を説明する。
総論Ⅶ：1 治療の基礎	ウ ライフステージ別の治療	c 高齢者の治療	1. 高齢者の症状発現の特徴を説明する。 2. 高齢者に多い全身的な疾患を列挙する。 3. 安全な歯科治療の構築方法について説明する。
各論Ⅱ：2 歯髄疾患、根尖性歯周疾患	エ 高齢者の歯髄疾患・根尖性歯周疾患	a 高齢者の歯髄疾患と治療 b 高齢者の根尖性歯周疾患と治療	1. 高齢者の歯髄疾患の特徴を説明する。 2. 高齢者の歯髄疾患の特徴を説明する。
各論Ⅱ：3 歯周疾患	オ 高齢者が有する歯周疾患	（小項目なし）	1. 高齢者の歯周疾患の特徴を説明する。
各論Ⅴ：2 老化による口腔・顎顔面領域の症候	イ 形態的変化	ア 機能的変化 a 咀嚼機能 a 歯、歯列 b 歯槽骨、顎骨 c 口腔粘膜、舌、唾液腺 d 顎関節、筋	1. 老化による咀嚼機能の変化を説明する。 1. 加齢に伴う歯と歯列の変化を説明する。 2. 加齢に伴う歯槽骨、顎骨の変化を説明する。 3. 歯の喪失に伴う歯槽骨、顎骨の変化を説明する。 4. 加齢に伴う口腔粘膜、舌、唾液腺に発現しやすい疾患と症状を列挙する。 5. 加齢に伴う顎関節の変化を説明する。
総論Ⅴ：4 高齢者等に関連した予防と管理	ア 歯の喪失予防	a 口腔保健指導	1. 高齢者の歯の喪失予防方法について説明する。
各論Ⅴ：5 高齢者等に関連した歯科治療	ア 歯および歯周疾患への対応 イ 歯の欠損への対応 ウ 軟組織疾患への対応 エ 口腔・顎顔面の硬組織疾患への対応	（小項目なし） （小項目なし） （小項目なし） （小項目なし）	1. 高齢者に多い歯の硬組織疾患を説明する。 2. 高齢者に多い歯周組織の疾患を説明する。 3. 根面う蝕の治療について説明する。 1. 歯の喪失原因について説明する。 2. 歯種による歯の寿命の違いを説明する。 3. 歯の欠損への対応方法を説明する。 1. 高齢者に多い口腔軟組織疾患を列挙する。 1. 高齢者に多い口腔・顎顔面の硬組織疾患を列挙する。 2. 高齢者の硬組織疾患への対応方法を説明する。
必修：12 治療の基礎・基本手技	イ 乳幼児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療 ス 患者管理の基本	a 治療環境 b 患者の体位 c コミュニケーション d チーム医療 c 日常生活動作（ADL）の評価	1. 高齢者に適した治療環境を説明する。 2. 高齢者の歯科治療体位について説明する。 3. 高齢者とのコミュニケーション技法について説明する。 4. チーム医療の目的を説明する。 1. ADLの評価項目を列挙する。
必修：13 一般教養的事項	ウ 歯科医療に必要な基本的医学英語	（小項目なし）	1. 基本的な歯科英語を列挙する。 2. 患者の症状を英語で説明する。

総論Ⅰ：2 ライフステージ別に応じた保健・福祉の制度	オ 高齢者保健、高齢者歯科保健	a 現状、動向 b 高齢者の特性 c QOL (quality of life)、日常生活動作 (ADL) d 高齢者歯科保健、高齢者の口腔管理 e 日常生活支援事業、介護予防	1. 日本における高齢者保健の現状を説明する。 2. QOLの定義を説明する。 3. 高齢者の口腔管理方法について説明する。 4. 介護予防における歯科の役割を説明する。
総論Ⅴ：5 高齢者への対応	ア 診察	a 診察時の注意 b 既往歴・合併症の評価	1. 高齢患者の歯科治療に於ける注意事項を列挙する。 2. 基礎疾患の把握方法について説明する。 3. 診療情報の収集と保管、伝達について説明する。
	イ 機能評価	a 日常生活動作 <ADL> b 手段的日常生活動作 <IADL> c 認知機能 d 運動機能 f 要介護度	1. ADLの評価方法について説明する。 2. FIMの評価項目を列挙する。 3. 認知機能の簡易検査方法について説明する。 4. 運動機能測定方法を列挙する。 5. 要介護認定方法について説明する。
	ウ 栄養評価	a 栄養アセスメント	1. 栄養アセスメント方法を列挙する。
各論Ⅴ：3 高齢者等に関連した臨床評価・診断・治療計画	ア 全身状態の評価	a 身体状態 b 認知機能 c 心理 d 行動 e 栄養 f 服用薬物	1. 全身的な状態の評価方法を列挙する。 2. 認知機能のスクリーニング法を説明する。 3. 認知行動療法の概要を説明する。 4. 高齢者の栄養評価方法を列挙する。 5. 高齢患者が服用している薬剤の把握方法を説明する。 6. 高齢患者が服用している薬剤と口腔症状を説明する。
総論Ⅵ：1 口腔検査、顎口腔機能検査	イ 顎口腔機能検査	f 発声・構音・発語検査 g 鼻咽腔閉鎖機能検査	1. 発音の検査方法を説明する。 2. 構音の検査方法を説明する。 3. 鼻咽腔閉鎖不全の症状を説明する。 4. 鼻咽腔閉鎖不全の検査を説明する。 5. 鼻咽腔閉鎖不全に対する訓練方法を列挙する。 6. 鼻咽腔閉鎖不全に対する器具について説明する。
総論Ⅶ：6 リハビリテーション	ア リハビリテーションの概念	(小項目なし)	1. リハビリテーションの概念を説明する。
	イ リハビリテーションの技術	b 発声・構音・発語障害のリハビリテーション c 口腔機能管理	1. 発声・構音のリハビリテーションについて説明する。 2. 摂食嚥下リハビリテーションにおける口腔機能管理を説明する。
総論Ⅶ：9 その他の治療法	ク 食事・栄養療法	(小項目なし)	1. 高齢者の栄養状態について説明する。 2. 栄養方法の種類を列挙する。 3. 栄養療法の手順を説明する。
各論Ⅴ：5 高齢者等に関連した歯科治療	カ 周術期口腔機能管理	(小項目なし)	1. 周術期口腔機能管理の目的を説明する。 2. 周術期口腔機能管理に期待される効果について列挙する。 3. 周術期口腔機能管理方法について説明する。
各論Ⅴ：6 摂食嚥下障害への対応 (摂食機能療法)	ア 治療的アプローチ	a 間接訓練 b 直接訓練	1. 摂食嚥下リハビリにおける治療的アプローチ方法を列挙する。 2. 摂食嚥下リハビリにおける代償的アプローチを列挙する。 3. 摂食嚥下リハビリにおける環境の影響を説明する。 4. 摂食嚥下リハビリにおける心理的アプローチを説明する。
	イ 代償的アプローチ	(小項目なし)	
	ウ 環境改善的アプローチ	(小項目なし)	
	エ 心理的アプローチ	(小項目なし)	
	オ 栄養療法	(小項目なし)	
各論Ⅴ：1 高齢者等の歯科診療で注意すべき疾患・病態	ア 運動障害	a 脳血管疾患 b 関節疾患 c 骨折 d 廃用症候群 e 神経・筋疾患	1. 運動障害の原因となる疾患を列挙する。 2. 運動障害の評価方法を説明する。 3. 要介護状態になる原因としての骨折を説明する。 4. 廃用症候群について説明する。 5. 神経・筋疾患患者に対する歯科的対応について説明する。
	イ 認知障害	a 認知症	1. 認知症の症状を説明する。 2. 認知症の原因を説明する。
各論Ⅴ：3 高齢者等に関連した臨床評価・診断・治療計画	ウ 診断	(小項目なし)	1. 若年者と対比して、高齢患者の歯科疾患診断方法の違いを説明する。 2. 高齢患者の歯科疾患の診断を困難にしている要件を列挙する。 3. 高齢患者に対する歯科治療計画の立案方法について説明する。
	エ 治療計画の策定	(小項目なし)	
各論Ⅴ：4 高齢者等に関連した予防と管理	イ フレイル予防のための歯科保健管理	a 口腔衛生管理 b 口腔機能管理 c 栄養管理	1. フレイルの定義を説明する。 2. フレイル診断に用いる項目を列挙する。 3. オーラルフレイルの予防方法について説明する。
各論Ⅴ：5 高齢者等に関連した歯科治療	オ 構音障害に対する対応	(小項目なし)	1. 構音障害の評価方法を列挙する。 2. 構音障害に関わる構音器官を列挙する。 3. 構音障害に対する器具を説明する。
各論Ⅴ：8 在宅医療、在宅支援	ア 訪問歯科診療	a 訪問歯科診療器材 b 保健指導	1. 在宅歯科医療に用いる器材を列挙する。 2. 診療環境の構築方法を説明する。 3. 訪問による口腔保健指導を説明する。
	イ 多職種協働	(小項目なし)	1. 在宅医療における多職種連携の意味を説明する。 2. 在宅医療において連携する職種を列挙する。 3. チームアプローチ方法を列挙する。